

「第2回教員免許状更新講習（選択領域18時間）」

～学級経営に活かす豊かな体験活動～

1. 趣旨

様々な立場の講師からの講義を通して、学習指導要領改訂を踏まえた、最新の教育動向を学びながら、体験活動の重要性を理解するとともに、本所で行われている体験活動プログラムを実際に体験する実習を通して、体験活動の必要性や有用性を実感するとともに、教員としての資質向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和元年11月23日（土）～11月24日（日）

(2) 参加者 教員免許状取得者 26名

①校種 小学校 12名 中学校11名 特別支援学校 2名 その他 1名

②男女別 男性 18名 女性 8名

③都道府県別 群馬県 16名 栃木県 4名 埼玉県 4名 茨城県1名
千葉県 1名

3. 企画運営のポイント

防災教育に焦点を当て、「避難所運営ゲーム」や「防災食体験」などを取り入れたプログラムを実施する。また、参加した教員が学校・学級にもちかえってすぐに実践できるプログラムとして、「あかぎアドベンチャープログラム」や「ビジュアルオリエンテーリング」は、実践しながらその効果を体験できるように実施する。

4. 日程

	午前	午後	夜
11月 23日 (土)	講義「学校教育の現状と課題」 講師 群馬県教育委員会 義務教育課長 鈴木佳子 演習「ビジュアルオリエンテーリング」 講師 国立赤城青少年交流の家 所長 松村純子	講義・演習「防災教育 プログラム体験」 講師 日本防災士会 群馬県支部長 飯塚宗夫	講義・実習「仲間づくりの レクリエーション①」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 横山直樹 情報交換会
11月 24日 (日)	講義・実習「野外炊事」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 横山直樹 講義・実習「仲間づくりの レクリエーション②」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 横山直樹	実習「クラフト」 講師 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 奈良貢 講義「学校教育における 体験活動の意義」 講師 信州大学教育学部 野外コース講師 瀧直也 履修認定試験	

5. 主な活動内容



「学校教育の現状と課題」



「ビジュアルオリエンテリング」



「防災教育プログラム体験」



「仲間づくりのレクリエーション」



「野外炊事」



「学校教育における体験活動の意義」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 25 人 (96%) やや満足 1 人 (4%) やや不満 0 人 不満 0 人

(2) 参加者の声

- ・「学校教育の現状と課題」では、来年度から本格実施となっていく新学習指導要領の内容について詳しく聞くことができ良かった。
- ・ビジュアルオリエンテリングを実際に体験することにより、観察力やコミュニケーション力、表現力や発見力の向上につながると実感しました。とても簡単にできそうなので、児童会の集会等で活用してみたいと思います。
- ・「仲間づくりのレクリエーション」では、色々なアイスブレイキングを知ることができ、学校でも使ってみてみたいと思った。協力することで、グループの一体感を生むことができた。
- ・「防災教育プログラム体験」では、Hugを通して避難所運営の難しさを知るとともに、避難所の役割について知ることができた。
- ・「野外炊事」では、ビニル袋でご飯やオムレツが簡単にできることがわかり驚きました。非常時に活用できそうだと感じた。
- ・「クラフト」はとてもゆったり工作したり、交流したりできて良かった。
- ・「学校教育における体験活動の意義」では、ただ活動をさせて終わりではなく、ねらいを設定し、振り返らせることで体験から得た学びが大きくなるのだと感じた。

(3) 成果

防災に関する体験活動を中心にプログラムを組むことで、参加者は普段あまり意識していなかった「防災」を意識し、自校の防災計画等に積極的に関わろうとする意欲をもたせることができた。

また、学校・学級にもちかえってすぐにでも取り組めるプログラムを紹介することで、学んだことを実践しようとする意欲をもたせることができた。

(4) 課題

今後はさらに近県への広報（チラシの送付・持ち込み、HPでの紹介）に力を入れ、より多くの教員に本研修を周知していきたい。

また、始まりと終わりの時間を再度検討していきたい。